

きたのこだより



札幌市立あつべつきた幼稚園 令和6年3月発行 第4号

今年度、あつべつきた幼稚園では“一人でじっくり・友達と一緒に・みんなで学びをつなげよう!”をキャッチフレーズに「一人一人が自分の力を発揮するための環境構成と教師間の連携の在り方」について『北翔大学 教育文化学部 教育学科の准教授 工藤ゆかり氏』をアドバイザーに迎え、研究を進めてきました。



3年研究2年目として取り組んできた内容について報告いたします。

令和5年度 札幌市立あつべつきた幼稚園の研究

- 研究主題 質の高い幼児教育の実現に向けて ～つながる ひろがる 札幌市の幼児教育～
- 研究の重点 「一人一人が自分の力を発揮するための環境構成と教師間の連携の在り方」
～一人でじっくり・友達と一緒に・みんなで学びをつなげよう!～

今年度の取組

・教師が担任、担当に関わらず、幼児が偶然、必然の環境を生かして遊ぶ場面を捉え、週案のトピックとして写真を用いて記載してきました。それを基に、その遊びの周りに居た幼児や異年齢の姿、遊びの流れや変化を含めて事例としてまとめ、環境の構成の仕方や連携について話し合い、次の日からの保育に生かしてきました。

～このような事例の様式で話し合いを重ねてきました～(一例)

〈幼児の姿〉

年中

・9/21(木)終了後すぐに、年中保育室で、教師が段ボールと枠積木でカホンを作った。叩いて楽しむ姿があった。

※一人の幼児の遊びを支えた

・10/3(火)教師と一緒にギターやベルなどを作って遊ぶ。みんなで曲に合わせて手作り楽器の合奏を楽しむ。

※友達との遊びにつながった。

音の楽しみ方って・・・

〈保育と幼児の遊びの流れ〉

・9/21(木)
9月誕生会 職員による器楽演奏 (ピアノ・木琴・鉄琴・カホン・トライアングル・タンブリン・ベル)

〈小学校との連携〉

≪校長先生へ≫
楽器の音調べをしています。学校にはたくさん楽器がありますか?

めろん組より

〈幼児の姿〉

年長

・9/22(金)登園後、友達と一緒にベルを鳴らして、いろいろな音を楽しんだ。
・木琴や鉄琴などの音を鳴らしたり、曲を弾こうとしたりする幼児もいた。

※ホールにはベルを、保育室には木琴と鉄琴、それに音階表を用意した。

- ・「もっと、いろんな音を知りたい!」
- ・「他に楽器はないかな?」
- ・「学校にあるかも!」

・校長先生に手紙を書こう!

※小学校と連携できるのでは?



厚別北小学校の校長先生から、**音楽室の探検**に来ませんか?とお誘いを頂いた!

・「一緒に行ける! 嬉しい!」
(図書館の時は留守番だった)

・「行きたい! 年中さんも誘って行こう!」

異年齢との関わり

この時期、この学年に何を体験させたいのかななどを明確にして、**教師間で連携する大切さの再確認**

・楽器の音の違いや鳴らし方で音が変わること気が付いた。

・10/11(水)
小学校へ!
幼稚園には無い、いろいろな楽器に触れたり、校長先生の話の聞いたりした。



・とにかく、楽器に触りたい。

学年・個人による興味・関心の違い!

・自由に音を鳴らしたい!
・年長さんと同じようにできるはず!

異年齢との関わり

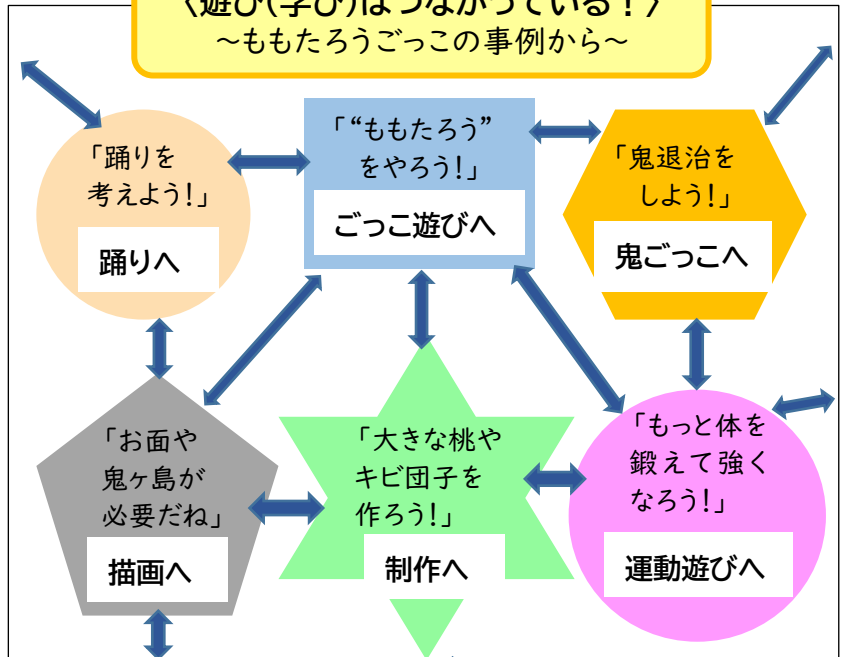
・「友達と一緒に、きれいな音で曲を演奏したいな...」
・自由に鳴らす年中児に向かってダメって言わない...

〈話合いのポイント〉

- ・幼児の見取りや環境の作り方で良かったところはどこかな? もっと考えられることはあるかな?
- ・教師間や学校との連携で良かったところはどこかな?
- ・年中児と年長児の思いの違いを、どのように捉えてどのように互いを支えていくと、この時期の学年や個々の幼児に対するねらいと一致するかな?

今年度わかってきたこと

〈遊び(学び)はつながっている!〉
～ももたろうごっこの事例から～



◎一人でじっくり探求できる環境、友達と一緒に探求できる**環境を工夫**する。
*そこで試行錯誤することで、遊びの広がりや深まりが見られた。

◎個々や学年のねらいをしっかりと持ち、**教師間で共有して関わる**ことが大切。
*幼児の遊び(学び)が途切れることなくつながり、新たな遊び(学び)へとつながる姿が見られた。

◎一つ一つの遊びを大切に**する**。
*一つの遊びには、10の姿が複数みられた。

◎それぞれの遊びの場で**「今」何を大切に、何を育てたいのか**を明確にする。
*やりたい遊びを実現させることで、満足感・充実感を味わい、次への意欲につながった。

次年度に向けて

3年研究の最終年となる来年度は、上記のことを踏まえ、さらに対話的で協同的な遊び(学び)について研究を進めることで『質の高い幼児教育の実現』に近付けていきたいと考えています。

❀❀❀❀❀❀❀ 白石区のきくすいもとまち幼稚園と ❀❀❀❀❀❀❀ 今年度の研究のまとめについて話し合いをしました！

今年度は同じ“研究副主題”“重点”の「きくすいもとまち幼稚園」と互いの保育を見合ったり、実践事例を基に話し合ったりしながら研究を進めてきました。2園合同で研究をすることで、自分たちの保育を俯瞰的に考えることができ、いろいろな考え方や方法に触れたり、同じような内容に共感したりしながら、保育(研究)を進めてくることができました。



両園で共通して
わかってきたこと

〈環境構成について〉

・一人一人の思いを受け止め、探求する姿を支えながら、周りの幼児への刺激となるような環境を作っていくことで友達とのつながりが生まれ、自分とは違う考え方ややり方を取入れながら遊びが広がったり、深まったりしていくことがわかってきた。



〈教師間の連携について〉

・教師間でそれぞれの幼児の育ちや、ねらいを話し合い、共有して幼児を支えていくことはもちろん、遊びの流れや変化に応じて、その場で教師が伝え合うことで、遊び(学び)が続いていくことがわかってきた。

〈白石区・厚別区研究実践園 研究アドバイザー〉

北翔大学 教育文化学部 教育学科 准教授 **工藤 ゆかり先生**



国の教育振興計画では、子ども自身と子どもを取り巻く社会のウェルビーイングの向上を目指しています。そのために保育現場では、子どもの主体性や創造性を育み、一人一人の自己実現を目指します。厚別区と白石区の「遊びを通した幼児期の学び」の研究を通して、一人一人の個別最適な学びの実現および友達と共に遊びを進めるための具体的な環境の構成が導き出されました。

今後も個人のウェルビーイングと仲間集団や園全体のウェルビーイングを一体的に向上させることが重要ですね。



※来年度も厚別区と白石区は同じ研究主題・副主題・重点をもち、今年度同様に、互いの園の保育参観をしたり、共に事例研究をしたりして、研究を進めていく予定です。

